

# 箏篳の研究

——東アジアの寺院莊嚴と絃楽器——

中安真理著

▶ A 5 判・280頁／定価：本体6,000円(税別) ISBN978-4-7842-1849-3

2016年6月刊行予定

浄土では自然と音楽が湧きおこり、仏の功徳を謳っている——  
寺院においてその音楽を象徴したのが、建築物に飾られた楽器である。  
長く仏教建築を莊嚴しながらも今では廃れてしまった絃楽器「箏篳」。  
中国・日本の文献を博搜し、その実態を明らかにする。

## ◆◆目次◆◆

### 序 章

- 一 コト形絃楽器とは
- 二 風で鳴るコト形絃楽器「ウインドハーブ」
- 三 箏篳三種
- 四 本書の構成

### 第一章 浄土の音楽

- 一 風で動いて鳴るもの
- 二 自然に鳴るもの
- 三 自然に鳴る箏篳
- 四 箏篳の特殊性
- 五 美術作品にみる自然に鳴る音楽の表現

### 第二章 日本の美術作品にみる箏篳

- 一 竪箏篳
- 二 鳳首箏篳
- 三 金剛箏篳

### 第三章 臥箏篳

#### —日本の仏教建築を莊嚴するコト形絃楽器の源流—

- 一 先行研究
- 二 箏篳の発生
- 三 箏篳の形態
- 四 フレットをもつコトの図像資料

- 五 文献史料にみるフレットをもつコト
- 六 朝鮮半島の玄琴の起源

### 第四章 日本における箏篳の漢字表記と雅楽寮での使用

- 一 漢字表記と助数詞による区別の有無
- 二 雅楽寮での使用

### 第五章 仏教建築を莊嚴する「箏篳」の資料分析

- 一 文献史料にみる「箏篳」
- 二 美術資料にみる「箏篳」
- 三 考古資料にみる「箏篳」
- 鳥羽離宮跡出土コト形木製品—

### 第六章 中国・日本における「風琴」「風箏」

- 一 中国の詩文にみる「風琴」「風箏」
- 二 「風箏」は風か
- 三 唐代の史料にみる「風箏」
- 四 日本における「風箏」

### 第七章 仏教建築を莊嚴する宝鐸の存在と音の意義

- 一 「鐸」の字義
- 二 インドの宝鐸
- 三 中国の宝鐸とその音
- 四 自鳴する様々な体鳴楽器の音の意味
- 五 仏国土の宝鐸
- 六 日本の宝鐸と鐘

なかやす・まり…1971年静岡県生。早稲田大学文学研究科芸術学(美術史)専攻博士後期課程単位取得満期退学、博士(文学)乙取得。高野山霊宝館学芸員を経て、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター特別研究員。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

| 注 文 票 |                                                                                  | 発 行 : 思 文 閣 出 版 |              | (京 都    取引コード 3402) |                       |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--------------|---------------------|-----------------------|
| 冊 数   | 冊                                                                                | 箏篋の研究           | 本体6,000円(税別) |                     | ISBN978-4-7842-1849-3 |
| お 名 前 |                                                                                  |                 | tel          |                     | 本書HPのQRコード            |
|       |                                                                                  |                 | e-mail       |                     |                       |
| ご 住 所 | 〒                                                                                |                 |              |                     |                       |
| 送本方法  | 代引 (書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担)<br>◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎ |                 |              |                     |                       |

## 陽明文庫蔵 舞絵〔舞楽散楽図〕・法隆寺旧蔵 指鼓

上野学園大学日本音楽史研究所編 日本音楽史料叢刊 1  
「図版篇」では陽明文庫蔵の舞絵〔舞楽散楽図〕を全頁カラー影印し、「論考篇」ではそれについての論考2点と、法隆寺旧蔵の指鼓(かいこ、世界唯一の伝存楽器)について論じる。  
▶A4判横綴・252頁／本体2,700円(税別) ISBN978-4-7842-1804-2

## ※古楽古歌謡集 陽明叢書国書篇 第8輯

土橋寛・岸辺成雄・福島和夫他解説  
藤原氏の嫡流である近衛家に歴代集積・収蔵されて来た貴重な飼料や文献は、今日、陽明文庫と命名され保存されている。この文庫の内から特に国文学に関係深いものを選び、専門家諸氏の解説を得て写真製本として公刊。  
▶菊判・304頁／本体11,800円(税別) ISBN4-7842-0145-9

## 神霊の音ずれ 太鼓と鉦の祭祀儀礼音楽

朱家駿著  
祭祀儀礼に用いられる太鼓や鈴・鉦の音楽的な機能と本質はどこにあるのか——祭祀儀礼の音をさぐるフィールドワークと象形文字に発した古代漢字(音・楽・鼓など)の分析を重ね合わせることによって神霊と音のさまざまなすがたを明かす。  
▶A5判・196頁／本体3,500円(税別) ISBN4-7842-1095-4

## 宮古島狩俣の神歌 その継承と創成

内田順子著  
沖縄県宮古島狩俣集落における伝統的祭祀歌謡(神歌)の永年のフィールドワークをもとに、歌われる歌の諸表現が、その都度どのように生み出され、それが演唱者や社会によってどのように意味づけられてゆくのか。歌詞のみによらない新たな歌謡分析の方法を提示した意欲的な一書。  
▶A5判・300頁／本体6,600円(税別) ISBN4-7842-1036-9

## ※正倉院宝物に学ぶ

奈良国立博物館編  
日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院研究の現在、八世紀の東アジア文化、宝物の保存・伝承の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粹がわかる一書。  
▶A5判・438頁／本体3,000円(税別) ISBN978-4-7842-1439-6

## 正倉院宝物と古代の技

木村法光著  
正倉院宝物はどのような材料で製作されているのか。奈良時代の匠が用いた技術が優れていた理由は何なのか。  
長年、正倉院事務所保存課に勤務し、正倉院宝物の調査・研究、保存・管理に携わってきた著者の研究成果を一書にまとめる。  
▶A5判・522頁／本体15,000円(税別) ISBN978-4-7842-1809-7

## ※仏教東漸の旅 はるかなるブッダの道

宇田茂樹著  
釈迦の聖地を起点に悠久の歴史が遺した信仰の足跡をたどる仏教美術巡礼。仏跡の地図・写真多数収載。  
【内容】釈迦の遺跡を訪ねて／インドの寺院と石窟寺院／パキスタンの仏教美術／新疆ウイグルの遺跡のかずかず／河西回廊の仏教遺跡／中国中原の石窟／河北・山西・山東省の石窟／韓国の石仏／追録  
▶A5判・296頁／本体2,500円(税別) ISBN4-7842-0991-3

## 続日本仏教美術史研究

中野玄三著  
前著『日本仏教美術史研究』(品切)から約20年。現役引退後も京都府下の8市町村史の編纂や奈良国立博物館の調査に携わり、美術作品の調査研究を続ける中から生まれた知恩寺本十体阿彌陀像、東寺本仁王経五方諸尊像、西大寺本馬頭観音像、神護寺薬師如来立像ほかについての研究成果15篇を収録。  
▶A5判・540頁／本体11,000円(税別) ISBN4-7842-1269-8

## 天皇・将軍・地下楽人の室町音楽史

三島暁子著  
南北朝・室町時代を通じて天皇・将軍が学び権威のシンボルとなった「笙」。本書では、天皇家・将軍家の笙の御師範として重要な役割を果たした地下楽人豊原氏の南北朝期から約150年にわたる活動に着目し、公・武・楽家という3者の関わりの中から、権威に密接にかかわった音の文化を論じる。  
▶A5判・360頁／本体6,600円(税別) ISBN978-4-7842-1609-3

## 茶の湯と音楽

岡本文音著  
室町後期から江戸初期、茶の湯が発展・拡大へと向かう時期の文献をひもときつつ、「音楽」の世界をとおしてみえる茶の湯の美意識を、大きく能楽(第1章)、「峯すり」(第2章)、茶の湯の釜の煮え音「五音ノ湯アヒ」(第3章)、茶の湯空間における音(第4章)という4つのトピックから明らかにする。  
▶A5判・376頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1606-2

## 祭礼と芸能の文化史

園田稔・福原敏男編 神社史料研究会叢書Ⅲ  
神社・神道研究のみならず、地域史・政治史・社会経済史・文化史、さらに文学・芸能・音楽・民俗ほか幅広い分野の研究に資するという視点で神社史料の有効活用・研究の深化普及を目的として結成された神社史料研究会の研究成果から、神社を祭場・舞台として繰り広げられる祭礼と芸能を特集する。  
▶A5判・300頁／本体6,500円(税別) ISBN4-7842-1159-4

## 古文化財の科学

山崎一雄著  
古文化財の科学的研究の第一人者による45年余にわたる成果をまとめる。正倉院宝物の調査・装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂壁画・栄山寺八角堂・醍醐寺五重の塔・源氏物語絵巻などの顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの科学分析、および銅鏡・銅鐸・青銅器などの成分分析に関する諸報告を収録。  
▶A5判・380頁／本体6,300円(税別) ISBN4-7842-0482-2

## 正倉院宝物に学ぶ2

奈良国立博物館編  
日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院宝物の様々な面を報告・討論する第2弾。今回は2008～2010年の正倉院学術シンポジウム「正倉院研究の現在」「皇室と正倉院宝物」「正倉院宝物はどこで作られたか」の3テーマを収録。  
▶A5判・348頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1658-1

## 大徳寺伝来五百羅漢図

奈良国立博物館・東京文化財研究所編  
中国・南宋時代の寧波周辺の地において、淳熙5年(1178)からほぼ10年をかけ、林庭珪・周季常という絵師により全100幅が制作され、うち82幅が大徳寺に伝来する「五百羅漢図」。共同研究の調査報告書を大幅に増補改訂し、論文・参考資料を追加・加筆のうえ、図版をより大きくし、高精細カラー印刷にて公刊する。  
▶B4判・312頁／本体50,000円(税別) ISBN978-4-7842-1743-4

## 仏教美術を学ぶ

中野玄三・加須屋誠著  
50年以上の長きにわたる中野美術史学の軌跡を、加須屋誠との対談をとおして振り返り、仏教美術を学ぶことの課題・方法・魅力を余すところなく収録。ソフトな文体で読みやすく、仏教美術の入門書として最適の一書。  
▶A5判・348頁／本体3,000円(税別) ISBN978-4-7842-1720-5

## 続々日本仏教美術史研究

中野玄三著  
仏教美術史研究三部作の最新刊。50年に及ぶ中野美術史学の集大成。  
【内容】縁起絵序説／『八幡縁起』の展開／宇良神社本『浦嶋明神縁起』について／談山神社本『多武峯縁起』について／北野天満宮本『聖廟縁起』について／平等寺本『因幡堂縁起』について／縁起絵と高僧伝絵／丹後の麻呂子親王伝説と酒吞童子 ほか  
▶A5判・820頁／本体17,000円(税別) ISBN978-4-7842-1415-0

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。